

治すことにこだわり続ける 医療を常に追求し 短時間の日帰り手術で 患者さんの人生を豊かに変える

診察室から窓越しに最新のCTが見え、的確でスムーズな検査が可能になっている



良医の視点

金子 敏彦 院長

かねこ としひこ

医学博士。1997年、関西医科大学卒業。同年、関西医科大学耳鼻咽喉科医局入局。2001年、ドイツ、チュービンゲン大学耳鼻咽喉科聴覚研究所。関西医科大学附属洛西ニュータウン病院耳鼻咽喉科、大阪府済生会野江病院耳鼻咽喉科、関西医科大学附属滝井病院耳鼻咽喉科院長などを経て、11年、医療法人hi-mex みらい耳鼻咽喉科院長。14年、金子耳鼻咽喉科 Ear & Nose Clinic 開設。日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科専門医、補聴器適合判定医、難病指定医



高難易度の鼻中隔矯正術、内視鏡下副鼻腔手術、後鼻神経切断術などを同時に行う日帰り手術。チーム医療が威力を発揮する



精度の高い診察、診断が手術の安全性につながる。「短時間の手術で、人生が変わります」と金子院長

金子耳鼻咽喉科 Ear & Nose Clinic
(診療時間) 月・火・水 9:00~12:00 / 16:00~18:30
土 9:00~12:00

大阪府大阪市阿倍野区阪南町2-1-18
TEL.06-4399-4133 <http://kaneko33.com/>
※13:00~15:30は手術・特殊外来(要予約)
(休診日) 木・土午後・日・祝

難易度の高い手術の数々を 1度で終わらせて病気を治す

金子耳鼻咽喉科 Ear & Nose Clinicでは、鼻中隔彎曲症、慢性副鼻腔炎、蓄膿症、慢性中耳炎などの日帰り手術で実績を上げている。

症例数の多いのが鼻副鼻腔の内視鏡手術である。2015年1月~12月で患者106人に対し、延べ309件の日帰り手術を行う。「今年は6月までにすでに昨年とほぼ同数を手がけています。鼻副鼻腔の手術だけで年間では200症例、延べ600件はいくのではないのでしょうか」と金子敏彦院長はいう。慢性中耳炎の手術などを含めると年間延べ750件ほどの見込みである。

鼻の日帰り手術を実現するにあたって、大きな問題となるのが出血だ。どんなに安全な手術を目指しても、術後出血等のトラブルが起る場合がある。「手術を受けられた患者さんには携帯電話の番号をお渡ししています。もし何かあっても、私が駆けつけて素早く対処できるからで

す。日帰り手術を可能にするためには、ドクター自らが体を動かして患者さんを24時間管理・チェックすることが大切です」。そうしたことができるのは、関西医科大学附属病院時代からの臨床で培った豊富な経験があるからだともいう。

同院では、鼻中隔彎曲症の鼻中隔矯正術、慢性副鼻腔炎の内視鏡下副鼻腔手術、アレルギー性鼻炎の後鼻神経切断術などを連続して同時に行うことが多い。取材したこの日も、難易度の高い手術の数々を1度で終わらせたい。「左右の副鼻腔手術を、別の日に行うクリニクもあります。が、当院では1回で患者さんを治し切る治療を目指しています」

最新機器を導入し 内視鏡や顕微鏡にて 安全性の高い手術を目指す

手術では内視鏡や顕微鏡を駆使し、また最新型のシェーパーステム(骨や粘膜の切除と吸引を同時に行う)を大阪市内のクリニクに先駆けて導入するなど、最新機器を活用し、安全性の高

い手術を心がける。熟練の看護師を含めたチーム医療で日帰り手術の実績を積み重ねている。

安全性の高い手術を実現するためには、的確な診断が必要になる。同院では、電子スコープや最新のCT(コンピューター断層撮影法) スキャンを用い、精度の高い診断に役立てている。「最新のCTは座って撮影でき、診断には欠かせない先端機器です。鮮明な画像が得られ、被ばく量の少ないのも特徴です」

金子院長によると、耳鼻咽喉科の病気には手術で治すことができるものが多いとある。「究極的には2度と来院しなくてもいい治療をすることです。その手段の一つが手術です。慢性的な疾患に悩まれている方でも、数時間の日帰り手術で治るかもしれません。あきらめないで、ぜひご来院ください。耳鼻咽喉科は、感覚器を扱っているため、手術で治れば人生が豊かになります。これからも治すことにこだわり続ける医療を追求していきます」と金子院長は診療の motto を力強く述べた。